



大阪YWCA

4
2024

<http://osaka.ywca.or.jp>

YWCA (Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

国レベルの支援体制構築が必要 ~いつまでボランティアなのか~



金 香百合

元且に能登半島地震が発生。お正月を祝う様々な家族や人々に、突然で悪夢のような激震が襲いました。現在も、被災地全体や被災者には極めて厳しい日々が続いています。被災された方々の癒しと回復を心から祈っています。そして、自分に何ができるのかを考えています。

私は1995年の阪神淡路大震災時、大阪Yで「このころのケア・ネットワーク」を立ち上げました。多くのボランティアと共に、避難所や仮設住宅を傾聴してまわりました。その活動は、日本初の「ボランティアによる心のケア」と、何度も報道されました。その年は「ボランティア元年」と呼ばれて、災害時ボランティアの活動が目まくらされました。

2011年東日本大震災の発生から5年間は、毎月定期的に仙台・福島に行きました。「支援者の支援」や「被災しつつ支援役割を担っている人」の状況に関わりつづけました。神戸では体験しなかった、津波被害や、原発事故による「見えない喪失」にも直面することになりました。被災地域が広大で、被災者の人数も桁ちがいで、圧倒

されました。私はこれらの災害支援活動から、多くのことを学ばれました。能登半島地震の被災地支援を考えると、私は思い出す言葉があります。今は亡き草刈地賢一さん（神戸のPHD協会総主事）が、ボランティアについて語られた「言われてもしない、言われなくてもする」です。政府や公的機関から言われても、しない。それは政府等の仕事であって、ボランティアの仕事ではない。ボランティアは行政の便利屋や下請けではない。という意味でした。

今日本は高齢化・人口縮小、過疎化が深刻です。特に地方は顕著です。この30年、世界最速で高齢化が進み、インフラは未整備のまま老朽化しています。その状況下で災害が多発しているのに、対応は都道府県任せです。これを変える必要があります。いつまでも、ボランティアだのみの支援は困難を極めます。どこで災害がおこっても、国レベルで人・モノ・金・資源をつぎ込んで復旧・復興していく仕組みが必要なのです。特に、発災から余震が続き、交

通網も未整備の中、個人がボランティア活動に行くことは、私はおすすめてできません。命の危険を考えるからです。実際、阪神淡路大震災の直後のボランティア募集では、私たちは、危険リスクが伴うことを説明し、それを充分理解した上で、参加不参加を判断してほしいと、誓約書を求めました。多くの人は応募をやめられました。それでよかったと思います。復興の道りは長く、10年20年という時間を要します。そのプロセスに多様なボランティアが息長く必要となります。だからこそ、今はまだ緊急支援が必要な能登半島に、国レベルの公的な支援がしっかりと実現することを求めたいのです。

きむ かゆり
大学卒業後、大阪YWCAで20年余勤務。多様な活動を担当し、仕事を通じて多くを学んだ。特に阪神大震災の支援活動は転機となり、のちに休職して大学院で総合的人間学を学ぶ。現在は堺市立男女共同参画センター館長。大阪女学院大学非常勤講師。

通網も未整備の中、個人がボランティア活動に行くことは、私はおすすめてできません。命の危険を考えるからです。実際、阪神淡路大震災の直後のボランティア募集では、私たちは、危険リスクが伴うことを説明し、それを充分理解した上で、参加不参加を判断してほしいと、誓約書を求めました。多くの人は応募をやめられました。それでよかったと思います。復興の道りは長く、10年20年という時間を要します。そのプロセスに多様なボランティアが息長く必要となります。だからこそ、今はまだ緊急支援が必要な能登半島に、国レベルの公的な支援がしっかりと実現することを求めたいのです。



2024年3月2日(土) 14:10~16:30

来て、知って、つながろう!

2020年3月1日に突然の緊急事態宣言が出されて3年。2023年にはコロナが五類になり大阪YWCAも本格的に対面での活動が定着しつつありました。が、なんとなく停滞感が漂う雰囲気。運営委員会でも組織の若返りや活動の活性化が課題として上っていました。それなら、いっそこれを機会に会員活動全般をみなおそうと「大阪YWCA文化祭」を企画しました。

Yは人と出会って違った価値観や活動を知ることが

2020年3月1日に突然の緊急事態宣言が出されて3年。2023年にはコロナが五類になり大阪YWCAも本格的に対面での活動が定着しつつありました。が、なんとなく停滞感が漂う雰囲気。運営委員会でも組織の若返りや活動の活性化が課題として上っていました。それなら、いっそこれを機会に会員活動全般をみなおそうと「大阪YWCA文化祭」を企画しました。

Yは人と出会って違った価値観や活動を知ることが

2020年3月1日に突然の緊急事態宣言が出されて3年。2023年にはコロナが五類になり大阪YWCAも本格的に対面での活動が定着しつつありました。が、なんとなく停滞感が漂う雰囲気。運営委員会でも組織の若返りや活動の活性化が課題として上っていました。それなら、いっそこれを機会に会員活動全般をみなおそうと「大阪YWCA文化祭」を企画しました。

Table with workshop details: ワークショップ体験あれこれ. Includes times (14:55-15:25, 15:30-16:00, 16:55-17:00) and descriptions of various activities like 'Point of View', 'Yes/No', 'Storytelling', etc.



戦争がクライマックスです... 私、1年生の時に岐阜市に住んでいました。名古屋に大空襲があった日、岐阜も空襲を受けました。空襲警報がけたまましくなり私達家族は急いで防空壕に入りました。まもなくB29が屋根のギリギリを大音響と共に通って行き、その直後ドカンと物凄い音と共に砂のような物が入ってきました。近所の方々が壕の上に覆いかぶさっている材木やゴミを取り除いて助けてくれました。外に出てビックリ。今まで住んでいた家はどの家も柱だけになつていました。次の日、いつも遊んでいた友人の家に行くと友人のお父さんがみかん箱を自転車に積んでいました。「としちゃん、は？」と尋ねると、「この中に居るよ」とみかん箱を指さしました。「どうして」と尋ねると「昨日のB29にやられた」と涙を流されました。私はビックリ、言葉が出ませんでした。昨日まで元気に一緒に遊んだとしちゃんがこんな姿になって、胸がいっぱいで信じられない。

私の7歳の時の体験から戦争は人を悲しみの淵に陥れてしまっています。こんな想いは、二度とたくありません。人間はなぜ、戦争や争いが好きなのでしょう。私はわかりません。この地上から戦争がなくなりませう。

(会員 橋本 智香子)





走れ！女たちの魂よ

(マルコによる福音書16章1-4節)



渡邊さゆり 日本バプテスト同盟 駒込平和教会牧師
マイノリティ宣教センター共同主宰

復活の物語には必ず石が登場します。イエスは岩を掘って作った墓の中へ埋葬されました。墓の入り口は石で塞がれていました。埋葬時、遺体を預かったヨセフという男が石を転がします。ところがこの男の訪れた女たちにとっては難題となりました。彼女たちだけではその石を転がすことができないという悩みです。女たちは墓へと急ぎながら、石の問題を話し合っていました。「もっと腕力のある人を連れていけば？」「最初に石を動かしたヨセフに頼めば？」とツツコミを入れたくなるそうです。走り出してから根本的な問題について話し合うのも、「計画性が低すぎ」と注意したくなります。このような女たちの相談が、「女性は男性よりも腕力に欠けている」とか、「女性は衝動的に動く」という語りに変えられてはなりません。この話では、彼女たちの問題が、いかにして解かれたかに注目すべきです。

墓の前で彼女たちは無力さを味わうはずでした。しかし、その石はすでに転がされていきました。ここに救いがあるのです。用意周到、綿密な計画を超えて、必要なことは必ず成るといふことです。「これをやらねばと思わされている女たちよ、さあ行こう！大丈夫」そんな声が、この物語から聴こえます。神はあなたの駆け出しに伴われます。そして、すでに石は転がされているでしょう。

死者を弔うために朝早く駆け出して行った女たちのまつすぎさ、そのパッションは、世俗的には無駄（もう死んでいる人の世話をしても見返りが無い）、無理（石のせいで墓の中に入れない）とみなされてきました。今でも無謀すぎると思われるでしょう。社会的判断の縛り突き抜け、死者の弔いという、いのちの寿ぎへ女が走る時、石が転がるのです。それが聖書を通して証しされている神です。誰もが齢を重ねれば身体的には走ることは難しくなるでしょう。しかし、魂はどうでしょう。さあ、女たちの魂よ、走れ！



静かにあかりを灯す、サイレント・アピール

大阪YWCAでは、クリスマス時期に合わせて、ガザ即時停戦を訴える全国一斉サイレントアピールを呼びかけ、12/23〜25、大阪駅御堂筋北口で各日1時間の街頭行動をしました。ガザに爆撃のない夜をとの思いを込めて「Silent Night For Gaza」のパナーを掲げました。短期間の周知でしたが、「私も立ちました」とサッと現れ加わってくれた人もいました。サイレントとは言っても、気になる視線を投げられていた人には声をかけて、停戦に賛同の場合は、オリーブの木の手紙に葉のシールを1枚貼ってもらいました。「本当に戦争はよくないよ」と言ってく

れた親子、「みなさんのやっていることは素晴らしい」と翻訳アプリの文章をスマホで見せてくれたイスラーム教徒の女性、募金をしてくれた男性。中高生、大学生、20代ぐらいの若者たちの反応が柔軟だったことも印象的でした。サイレントの意味は静かに祈ること。かつてパレスチナYWCA総幹事のアブラさんが「平和は光です」と言っていました。希望の光を絶やさないために、アピールと一緒に立つのでなくとも、どうぞそれぞれの中で仲間と、あるいは一人でも、パレスチナの平和のために祈りを合わせましょう。

(会員 宮崎 祐)

Books 編集部文庫

「挑発する少女小説」 斎藤美奈子(河出新書)

小公女、若草物語、ハイジ、赤毛のアン、あしながおじさん、秘密の花園、大草原の小さな家、ふたりのロッテ、長くつ下のピッピー。少女小説の古めかしい名作を現代の視点から読み直す。少女が成長していく過程での制約への抵抗、自立への痛みを伴う歩みは今も変わらない。ふたりのロッテ〜冒険に踏み出すこと、長くつ下のピッピー〜常識を逸脱することの解説が秀逸。究極の戦う少女ピッピーは今も少女たちに勇気を与える。



聖書の言葉

天使は婦人たちに言った。「『あの方は死者の中から復活された。』と告げなさい。確かに、あなたがたに伝えました。」

マタイによる福音書28章7

天然羅臼昆布専門店

吾妻屋 創業七十余年

株式会社 吾妻屋 天満店(ぶららてんま内)

〒530-0033 大阪府北区池田町3-1ぶららてんま1階

キリスト教葬儀に関する全てを承っております

株式会社 **イースター式典社**

☎0120-415-087 (24時間) ✉info@easter-net.co.jp

営業エリア:近畿2府4県・福井・三重・鳥取・岡山・徳島・香川
兵庫県尼崎市杭瀬本町1-2-5 グラスアスコート3F TEL 06-6415-6861 FAX 06-6415-6862

http://www.easter-net.co.jp

日本語学科
卒業生

今こんなことしています

～世界各地で活躍している卒業生を紹介しています～



はく ほうさ
2003年卒 白 宝鎖さん
(中国・内モンゴル自治区出身)

2007年に日本の大学を卒業し、大手電機メーカーを経て、2016年に未来智農社(AgroTech)を創業しました。人工光型植物工場研究開発とプラント事業を、中国を拠点に日本を含む海外で展開しています。NPO法人植物工場研究会の理事として、現代農業・植物工場の分野で、日中の架け橋として活動しています!

インターンシップ プログラム最終回

2024年度は沖縄・大阪の フィールドトリップへ

沖縄・大阪のL A企画と一部ジョイントした若い女性のためのインターンシッププログラム2023は、2月17日をもって終了し、大阪・沖縄のインターン生は修了証を授与された。

有の課題とそれを実感できる場所をインターン生は直接訪れ、試行錯誤の末に2泊3日のツアーに組み込んでいった。これらをもとにして大阪では8月30日から9月1日、沖縄では2025年2月22日から24日のフィールドトリップが一般の参加者も募って実施される。皆さまの参加をお待ちしています。

(文責 編集部)



ピアノコンサートに 参加して

去る1月27日(土)の午後大阪YWCA千里の二階ホールでピアノコンサートが開催されました。ハートフルチャリティの趣旨に添えて演奏して下さったのは吹田市ご出身の初々しい新鋭ピアニストの堀江詩葉さんです。堀江さんは16歳でロシアに渡り名門音楽院で学ばれて数々の受賞後帰国され、国内でオーケストラとの共演、二人のお兄様と共演等演奏活動をされています。当日の演奏はバッハ、モーツァルト、ドビュッシー等おなじみの曲を透明で清々しい音色、生命力溢れる演奏で私たちが酔わせてくださいました。聴覚ばかりでなく視覚からも元気の「気」を充填された気がしました。最後に詩葉さんの伴奏で讃美歌を歌えたことで喜びは倍増となりました。

(会員 瀧本 政子)



インターンシッププログラム修了式

ご協力ありがとうございました
[24/1/1〜24/2/29]敬称略順不同
■賛助費
岡 由紀子
■寄付
梅田 匿名1名
■点学
匿名1名
点訳サークルシックスポイント

- こども図書館 田尻 美知
- 配食グループ 瀬戸 純代
- 女性エンパワメント部 金 香百合
- その他 大久保 絹 片山 隼亮 清塚 典子
- クリスマス献金 首藤 香 堀西 敏子 松下 起子 森下のり子
- 宗教学大阪大クリスチャンセンター
- 日本基督教団扇町教会
- 日本基督教団大阪教会
- 日本基督教団大阪城北教会
- 日本基督教団希望ヶ丘教会
- 日本基督教団堺教会

1月運営委員会報告

【報告】▼女性エンパワメント部 理事・運営委員・職員合同会議を受け、ユース育成について検討中 ▼グループパレット 12月はクリスマス会、1月はクッキング実施 ▼千里委員会 能登半島地震支援募金箱設置

【協議】1/3/2定期会員集

会とYWCA文化祭の進行など詳細協議 2/2/3・4ワンワールドフェスティバル、ブース担当割り振り

2月運営委員会報告

【報告】▼財務委員会 2023年度収支・募金達成状況報告、2024年度予算案提示 ▼千里委員会 1/27(土)堀江詩葉さんピアノコンサート78名参加 ▼学校広報 4/1から専門学校ホームページ刷新予定 ▼日本YWCA 1/28(日)新会員制度意見交換会オンライン実施

【協議】1定期会員集会、詳細詰め 2/2/3・4ワンワールドフェスティバル振り返り

3 関西3市Y(神戸・京都・大阪)の具体的な協働について

訃報

- 会員 松井 制子さん 12月25日逝去(90歳)
- 会員 小原美代子さん 3月7日逝去(90歳)